



夜間定時制高校の給食へようこそ！



新一年生、在校生の皆さん、入学・進級おめでとうございます。

学校給食は今から135年前（1889年・明治22年）に山形県の小学校から始まりました。

当時は貧困児童を対象に昼食を与えたのが最初で、昭和29年に制定された学校給食法に基づき「児童生徒の心身の健全な発達に資し、国民の食生活の改善に寄与すること」を目的とします。

土浦一高での給食の歴史を簡単に紹介すると

1950年・・・厚生省が夜間高校生に給食実施を決定

1961年・・・土浦一高においてミルク給食（脱脂粉乳）の開始

1968年・・・それまでのミルク給食から完全給食への転換

1970年・・・現在の食堂の完成



このような流れで現在の給食のスタイルが確立されて今年で56年目です。

完全給食とは米飯やパン、麺類などの主食と肉類や魚介類などのおかず・副菜・デザート・牛乳などを提供する給食です。

2024年現在、茨城県では10校の夜間定時制高校がありますが、土浦一高を含む6校が学校にある調理場で作る完全給食、3校がデリバリー弁当の給食、1校が補食給食というパンと牛乳もしくはおにぎりや牛乳などの給食を行っています。

本校においては和洋折衷の献立をさまざまな地域や国の郷土料理、行事食などを織り交ぜて工夫して作っています。皆さんも「こんな給食が食べたい」というものがありましたらお知らせ下さい。このところの食材価格の高騰で給食用食材の値段も軒並み上昇していますので、食べ物を無駄にしないようにお願いします。

小・中と給食を食べてきて高校でも続けて食べる人、久々の給食、初めての給食などそれぞれだと思いますが、高校生ともなるともう大人の味覚になっていると思いますので、この間まで食べていた給食、昔食べた給食とはまた違った味が定時制の給食で楽しめると思います。

みんなで和やかに食事することは、豊かな心や望ましい人間関係を築く上からも大切な役割を果たします。給食はバランスのとれた食事の提供はもちろん、学校教育活動の一環としての役割もあります。一日働いた栄養補給に、これからの授業の活力になるようなおいしい給食を提供しますので、いくつかのルールを守り楽しい給食に時間を過ごして下さい。

